

令和元年度全国高等学校総合体育大会（南部九州総体2019）開催概要について
保健体育課 全国高校総体推進室

1 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）とは

規模及び内容において高校生最高・最大のスポーツの祭典である。平成22年度の沖縄県開催をもって都道府県単独開催は終了し、平成23年度北東北総体からはブロック開催となった。

令和元年度の南部九州総体は4県（沖縄、鹿児島、熊本、宮崎）で開催され、開催競技種目数は30競技34種目で、本県ではサッカー競技を皮切りに7月25日～8月20日に開催される。

2 参加者見込数

	南部九州4県	うち沖縄県開催競技
選手・監督（実人数）	約 28,004人	約 9,700人
大会役員（実人数）	約 24,164人	約 5,900人
観客（延べ人数）	約 505,828人	約 135,000人
合計	約 557,996人	約 150,600人

3 総合開会式

2019年7月27日(土)鹿児島アリーナ(鹿児島県)

4 開催競技（南部九州ブロックでは30競技34種目）

鹿児島県 (7種目)	※総合開会式、体操（体操競技・新体操）、バスケットボール、卓球、柔道、フェンシング、カヌー
熊本県 (7種目)	水泳（競泳）、ハンドボール、バドミントン、ボート、剣道 レスリング、アーチェリー
宮崎県 (9種目)	バレーボール、ソフトテニス、ソフトボール、弓道、テニス 登山、ボクシング、ホッケー、少林寺拳法
沖縄県 (10種目)	陸上競技、水泳（飛込・水球）、サッカー、相撲、自転車競技 （ロード・トラック）、ウエイトリフティング、空手道、なぎなた
*H27からH36まで和歌山県にて固定開催	
和歌山県 (1種目)	ヨット

【種目別】（8競技10種目）（別紙1参照）

種目	会場地市町村
1 陸上競技	沖縄市
2 水泳(飛込・水球)	那覇市
3 サッカー	南城市、恩納村、金武町、北谷町、中城村、西原町、南風原町、八重瀬町
4 相撲	那覇市
5 自転車(トラック・ロード)	北中城(トラック)、名護市(ロード)
6 ウエイトリフティング	糸満市
7 空手道	名護市
8 なぎなた	那覇市

5 沖縄県実行委員会の取組状況について

(1) 沖縄県実行委員会 総会（予定含）

設立総会・第1回	H29年1月	沖縄県実行委員会会則・委員会役員 専門委員会付託事項 等
第2回	H29年6月	H28年度事業報告・収支決算 等 H29年度事業計画・収支予算 等
第3回	H30年3月	H30年度事業計画・収支予算 等 競技会場・競技日程 等
第4回	H31年3月	H31年度事業計画・収支予算 等
第5回 解散総会	令和2年3月	令和元年度事業報告・収支決算 等 沖縄県実行委員会の解散

(2) 各専門委員会の状況

委員会名	会議(予定含む)	主な議題
競技専門委員会	H29年6月・10月 H30年2月・6月・10月 H31年2月・6月・9月	運営費試算、会場・練習場運用計画、実施要項、競技用具借用等等調整・申請 等
広報・報道専門委員会	H30年7月 H31年6月	基本方針、組織、業務推進計画 等
宿泊・衛生専門委員会	H30年1月・9月 H31年2月	基本方針、組織、食品・環境衛生等対策要項、医療救護対策要項、業務推進計画 等
輸送・警備専門委員会	H30年6月・11月 H31年2月	基本方針、組織、輸送交通対策要項、警備 防災・危機管理対策要項、業務推進計画 等
高校生活動専門委員会	H30年3月・11月 H31年3月・9月	学校推進委員会・地区推進委員会 県推進委員会の発足、広報・おもてなし活動

(3) 会場地市町村等との連携について

- ① 12市町村のうち10市町村で実行委員会を設立。残りの2市村(南城、中城)も5月中には設立する予定。
- ② 競技種目別大会運営費各市町村実行委員会とのヒヤリング。H30年9月～10月:10種目)
- ③ 大会運営費について当初内示を受けて予算額を調整のうえ決定(H31年3月)。
- ④ 競技力向上対策事業 実施及び視察激励(H28～H31年度:28競技)。
- ⑤ 競技関係者合同会議(各市町村・競技専門委員会) 第1回H29年7月・第2回12月
第3回H30年3月・第4回H30年7月・第5回11月・第6回H31年2月。
- ⑥ サッカー競技会場市町村連絡調整会議(7市町村で連携するため)平成29年度から8回開催。
- ⑦ 全国高体連各競技専門部の視察への対応。

競技名	視察日程	備考
陸上競技	H29年11月済	
水泳(飛込・水球)	飛込(7/7)、水球(7/5)	
サッカー	H30年6月13・14日済	
相撲	H30年8月31日済	
自転車	H31年2月	自転車競技場公認取得後
ウエイトリフティング	H30年6月6日済	
空手道	H30年6月19日済	
なぎなた	H30年5月9日済	

(4) 県実行委員会の主な取組

① 高校生活動の実施状況と今後の取組(高校生活動専門委員会)

ア 高校生活動の実施状況

- (ア) H30年4月 県立学校校長研修会で高校生活動について説明。
- (イ) H30年4月～ 高校生活動地区推進委員会について各地区担当校へ業務説明。
- (ウ) H30年7月～ 高校生活動地区推進委員会(6地区)。
- (エ) H30年7月・10月・H31年2月 高校生活動推進委員会
- (オ) H30年7月～ 東海総体視察(生徒9名、引率4名)。
- (カ) H30年8月 高校生活動300日前カウントダウンイベント準備調整会議。
- (キ) H30年9月 300日前カウントダウンイベント(沖縄県那覇市)。
- (ク) H30年11月 300日前イベント(鹿児島県 生徒3名、引率1名)。
- (ケ) H31年3月～ 手作り記念品「うちなー結いの太鼓 ストラップ」制作(別紙2参照)。

イ 高校生活動の今後の取組

- (ア) 各学校への啓発活動や総合案内所の運営、歓迎活動等おもてなし活動。
- (イ) 各競技種目別大会運営補助員及び競技補助員。
- (ウ) 競技種目別開会式で放送・音楽(合唱・吹奏楽)、プラカードや歓迎の挨拶等。
- (エ) 会場地市町村の会場地における装飾用草花のアレンジや会場周辺の美化活動。

② 県民への気運醸成を図った広報活動と今後の広報計画

(広報・報道専門委員会)

ア 実施した広報活動

- (ア) 公式HPの開設及び情報発信。
- (イ) 県広報紙や広報番組「うまんちゅ広場」、ラジオ等出演による大会の周知(別紙3参照)。
- (ウ) 新聞紙面における大会カウントダウンカレンダーの掲載。
- (エ) うちわやチラシ等広報ツールの配布。
- (オ) 開催地市町村へ横断幕やのぼり等広報データの提供。
- (カ) 県内高校及び開催競技専門部等への横断幕提供。
- (キ) 大会開催前イベントにおける広報。
- (ク) モノレール駅電照広告(別紙4参照)。
- (ケ) 路線バス ラッピング広告(別紙4参照)。

イ 今後の広報計画(令和元年度)

- (ア) TV・ラジオCM(7月上旬～下旬)
県民の認知・理解を一気に高める手段として、テレビ・ラジオCMを戦略的に展開。
- (イ) 新聞広告(7月25日)
ポスターと連動したメインビジュアルを掲載し、大会日程や競技会場の周知を図る。
- (ウ) デジタル広告(6月上旬～8月中旬)
Facebook、Instagramを活用し、各年代をカバーするweb広告を展開。
- (エ) ポスターチラシ配布(6月上旬～8月中旬)
県内各所へ掲出及び設置を行い認知獲得へつなげる。
- (オ) 啓発イベントの実施(7月上旬～中旬)
県内の北部・中部・南部の商業施設においてイベントキャラバンを実施。
- (カ) テレビ特番企画(6月上旬～8月上旬)
新時代情熱応援番組「NEXSTARS」(OTV)とタイアップした番組を週1ペースで放映。
- (キ) バス車内広告(7月上旬～下旬)
路線バス100台にてシート広告を展開。
- (ク) モノレール車内広告(7月上旬～下旬)
ゆいレール車内の中吊り広告を展開。
- (ケ) コンビニ広告(7月上旬～下旬)
県内ローソン及びファミリーマートの「POSレジ画面」を活用し大会情報を発信。
- (コ) 車輻用PRステッカー(6月上旬～8月中旬)
視認性の高いPRステッカーを制作し、タクシー等にて大会のPRを展開。

平成31年度全国高等学校総合体育大会 ～感動は無限大 南部九州総体 2019～



響かせろ 我らの魂 南の空へ

沖縄県開催期間
2019年 7月25日(木)
～8月20日(火)



開催競技市町村

空手道 自転車(ロード)

サッカー

水泳(飛込) なぎなた
水泳(水球) 相撲

陸上競技

自転車(トラック)

ウエイトリフティング



主催 (公財)全国高等学校体育連盟
熊本県 熊本県教育委員会
宮崎県 宮崎県教育委員会
鹿児島県 鹿児島県教育委員会
沖縄県 沖縄県教育委員会
和歌山県 和歌山県教育委員会
関係中央競技団体

後援 スポーツ庁
(公財)日本スポーツ協会
日本放送協会
共催 読売新聞社

©インターハイ
マスコットキャラクター ウィニンくん

平成31年度全国高等学校総合体育大会 沖縄県実行委員会事務局
TEL 098-861-0002 FAX 098-861-0003 Email okinawa-soutai2019@outlook.jp
〒904-0014 沖縄県那覇市松尾1丁目6番1号 沖縄県教職員共済会館八汐荘3階A-3



沖縄県手作り記念品ネーミング決定！

【 うちなー 結の太鼓 ストラップ 】

令和元年度全国高校総体を「支える」活動を展開する沖縄県高校生活動推進委員会では、南部九州総体 2019 に来県される選手、監督、役員への記念品を、「ペットボトルキャップでつくる太鼓ストラップ」に決定しました。また、記念品のコンセプトにあったネーミングを募集し、県内 40 校 50 作品の応募の中から、「うちなー 結の太鼓 ストラップ」に決定しました。

今後は、県内の各学校において記念品の制作に取り組みます！

★手作り記念品のコンセプト

【沖縄の伝統芸能であるエイサーの大太鼓をモチーフにし、太鼓の柄にはミンサー柄《八重山の織物の柄：五つ口が（いつの）、四つの口が（世）を意味》を取り入れ、「いつまでも沖縄大会を忘れずに」という思いを込めました。

また、キャップの中には宮古島特産の塩（雪塩）をお守りとして入れ、安全祈願とともに最高のパフォーマンスが発揮できるようにとの願いも込めました】



制作する記念品（試作）

タイトル：県政広報テレビ番組で「感動は無限大 南部九州総体 2019」をPR！

平成 31 年 1 月 26 日（土）、27（日）、県政広報テレビ番組「うまんちゅひろば」で「感動は無限大 南部九州総体 2019」が紹介され、大会をPRしました。

番組撮影の様子



広報の一例

モノレール駅電照広告(小祿駅、旭橋駅、おもろまち駅)



バスラッピング(路線バス15台、1日最大の運行回数117回)

